

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	ヤフー株式会社
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>「光の道」構想の推進に賛成いたします。</p> <p>現在、インターネット上のビジネス環境ではすでにグローバル競争が始まっており、この1年間で飛躍的に知名度もあがり利用者数も増大した Twitter の例を出すまでもなく、海外企業が物理的に日本国内に事業所やサーバをおくことなくサービスを展開しております。</p> <p>このような環境下で行なわれている競争は、様々なプラットフォームを提供する部分での競争となっています。しかし残念ながら、わが国の産業がこの分野でトップを占めているものは少なく、諸外国のサービスに遅れを取っているといわざるを得ないと考えております。このような状況について、インフラ面から一気にパラダイムシフトを図ることが、わが国の産業強化にも繋がるものと考えています。もちろん、情報流通によって国民の生活が豊かになることも期待していますが、最先端の環境を全国的に整備し、他の国との利用環境での差を広げることで、最先端の技術を用いたサービスをわが国にもたらず可能性が高まるものと考えています。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>上記のような環境の整備は、できるだけ早急に完成される必要があり、民間の競争に委ねてきた今日までの状況の単なる延長では短期間に達成することが困難であることは明白だと考えます。早急な光の道の実現と実現後の安価なサービスの提供の実現のためには、国の戦略としてNTT東西、電力、ケーブルテレビなども含め環境整備のための構造変化を検討することも必要であると考えます。</p> <p>なお、実現される光の道がオープンプラットフォームとして機能するような体制の確保も重要であり、料金等の設定やサービス維持の適正性を確保するためには、料金設定基準の透明性を確保するための制度づくりや、消費者及びプラットフォーム利用者の代表から構成される第三者機関で監視する仕組みを併設するなど考慮する必要もあるのではないかと考えております。</p>